e-BEEF NEWS From A North Pasture

e-ビーフNEWS 北の牧場から

月刊情報誌
No.21

September 2015

発　行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
北海道帯広市西20条北2丁目
20－4　東洋内
TEL 0155-58-1129
FAX 0155-58-1130

十勝にサケ釣り

昨日、十勝、浜大樹の砂浜に鮭釣りに行きました。何年振りかの鮭釣りで、仕掛けや餌を作るのに右往左往。何度、釣具屋に足を運んだことやら。これで坊主なら、うちの嫁に何くそ言われるかハラハラ。夜明けとともに出発。予定地には案の定、釣り竿が林立。場所取りが勝負の分かれ目。負けたなと他の人の観察開始した矢先、突然グイグイで見てしまった大物銀鮭。競争心が目覚めて、隣の空き場所で開始。１本投入後、なんとアタリ。どう取り込んでよいかオロオロしながらリールを巻くといい感触でした。隣の人に協力してもらってゲット。うれしいやらドキドキの…(以上釣りレポでした。以下は略)

さて、十勝は盆明けから急に気温が下がり、朝で１０℃前後とストーブに頼るまでになってしましました。日中は２５℃まで上がり暑いぐらいですが、寒暖の差が大きく体調崩しやすいです。空は、入道雲からうろこ雲で秋模様。木々は、わずかに黄ばみ始め、ナナカマドの実も赤く色着き始めています。畑は収穫時期を迎え、トラクターやハ―ベスターが土煙りを立て縦横無尽に走り回っています。今年は、長期の干ばつや豪雨がありましたが、なんとか収量は確保できているようです。十勝の経済は農業次第、期待できそうですね。

活動のお知らせ

●8月12日(水)･13(木)　標茶町役場(池田町長面会)、TACSしべちゃ(標茶町)
釧路市　榛澤牧場:牧場再企画を検討します。

●9月12日(金)･13(土)　酪農畜産大学　畜産学会　日本産肉研究会主体事業講演　大会テーマ「日本畜産への問題提起と赤身牛肉生産の可能性」
S1.これでいいのか、日本の畜産(13:10－)　(座長:小笠原英毅(北里大学))
１)TPP締結前夜　北海道肉牛の残された道/直近のデータ分析からシュミレーション　花房 俊一氏(東洋食肉販売株式会社十勝工場 所長)
２)北海道における完全放牧による肉牛生産の実践　西川 奈緒子氏(様似町)
３)販売者としての観点から、生産や販売の問題を(6月中に内諾予定)　磯野 健雄氏(ワタミファーム＆エナジー株式会社 社長)

●現地調査･検討会を下記の日程で行います。参加できる方は、ご連絡ください。
9月24日(木)～25日(金)　雄武町　JAおうむおよび周辺農家

NEWSばか読み

●JA道東あさひ　牧草造成に大麦･小麦のカバークロップ試験展示
7/23:造成初年増収
● 穀物相場　国際価格上昇に一服　小麦、大豆に豊作感
7/23: エルニーニョどこに
● 大阪総研　府内の飲料食品工場副産物で乳牛用エコフィード
7/24:都市型酪農に期待感
● ファームデザイナーに注目　モダン牛舎でイメージ向上
7/27:生活にアートが必要
● 長野畜産試験場　地熱利用で低価格の畜舎暑熱対策を考案
7/28:自然は使わないと
● 家畜改良センター宮崎牧場　霜降デュロック種を改良
7/29:和牛と間違えてしまうかも
● 米国でエダマメ人気上昇　寿司に次ぐ検索件数
7/30:家畜の食べる大豆だけどね
● 電力各社4-6月決算　原発なくとも黒字
8/1:日本に合った電力を選択　再考
● TPP決着先送り　日米に誤算　NZ乳製品譲らず
8/2:各国に何が起こっているのか
● 米卸商　米食取り扱い減で飼料米拡大へ 8/3:流通も変貌に
● 夕張炭鉱　採炭再開　地産地消のエネルギーに 8/3:眠れる財宝が各所に
● 政府　耕作放棄地(全国40万ha)に新税検討 8/4:
● 夏商戦　猛暑追い風　7-9景気押し上げに 8/4:なるかな
● 鹿児島　福永畜産　熟成肉で直売 8/5:熟成肉は紙一重
● 農水省　16年度概算要求の主要項目に畜産クラスター
8/6:チームワークができるか
● 世界各地で前代未聞の熱波発生 8/6:温暖化の増幅現象
● 14年度の食料自給率　5年連続で39% 8/8:これで満足？
● 乳業大手　営業益大幅増　値上げとヨーグルト拡販 8/9:需給の安定策は？
● 都民調査　大震災を受け都内に農地必要 8/11:農政に生かして
● ハウス、キューピー、ヤクルト中国内陸部に進出
8/11:日本食品を中国庶民に
● 道産牛肉消費拡大大使にアンジェラ就任 8/12:どんどん食べて
● 川内原発　再稼働 8/12:九州農業者は如何に考えるか
● 京都農技研　乳酸菌を使った微生物農薬開発
8/13:玉ねぎ畑に牛乳まいているよ
● 全畜連　来年1月さいたま市場で乳廃牛の枝肉共励会開催
8/13:評価基準が楽しみ
● JA宮崎　和牛肥育試算　赤字長期化の恐れ
8/14:ブランド牛にも不安感募る
● スイス裁判所　牛のカウベル夜間外す判決 8/14:カウベルも騒音か
● 首相　７０年談話 8/15:うわべだけでなく肝に銘じて
● 農業ファンド　出資額倍増 8/17:農業投資が増えるよ
● スーパー　敷地内のバーベキュー専用スペースに人気
8/19:手軽にバーベキュー
● 淡路家畜市場　和牛子牛90万円台に 8/20:神戸牛人気でどこまで
● 米国産牛バラ肉　相場下落昨年の半値 8/20:中国の影響どこまで
● 山形牛繁殖和牛の190頭増産で日本一 8/21:底が浅い
● 食品値上がりジワリ浸透　エンゲル係数上昇 8/23:庶民の生活は
● 15年産の主食米の過剰作付解消 8/25:飼料米の増加は大丈夫？
● 中国市場混乱　世界同時株安 8/25:中国軸に世界が回る

東京直近NEWS (8/31　Shi-REPORT)

ホルス　枝相場は上げ下げを繰り返す。枝肉高値には変わらず。ホルス枝相場@１１５０前後での推移。販売状況は、盆休前も大きな賑い無く推移し定番の三角バラ焼き材が順調な程度。輸入のショープレが値ごろ感強く、焼き材も輸入に押されている。末端では、切落しの動きも鈍いことから赤身関係の動きは非常に悪い。重量構成比の大きな赤身部位の停滞から価格も取れず荷余り強い。カタロースの動きは早く、７月後半から問い合わせは多い。引合い強いが要請価格は思うほど上がらない。全体的に荷動き鈍く、枝高の正肉安状況が続いている。９月に入り、給食も再開し気温も下がってきたことから先々に期待したい。

経産牛　８月も盆休影響から、と場の稼働日数も少なく、枝相場は高値安定のまま。C１等級のガリ枝でも@７００は割らない状況。肥育ものの低迷と輸入もの値ごろ感からかパーツ引合いは強気だったものの、ここにきてパーツ引合いがやや弱まる。継続的な値上げから価格的に厳しくなってきたことと、価格面から輸入ものにシフトしている可能性強い。依然として、パーツは慢性的に不足傾向も価格面から販売にも不安要素が出てきている。牛正肉も同様に価格の上げから、国産の挽材棚縮小傾向、カウミートの値ごろ感強く、定番を輸入物にシフトしフェア対応で国産という売場にシフト強まっている。

左先生の畜産学研究NEWS

先月のある資料に「わが家の冷蔵庫」というのがありました。物資のない戦後に断熱材で囲って小さくなった木箱の上段に1-2貫目の氷を入れて下で食品を冷やした記憶があります。今のような大容量の食品は保存できず、役割も違います。この話と最近一年間の日本人の食べ残し量が640万tで、援助に回る食品量400万tを上回り、先進国ほど食品廃棄量が多く、大きなメタン発生源になっているという記事が気になりました。健康バランスの良い日本人の食生活にも見直しが必要なのです。　e-びーふNews21号の学術情報は毎年十勝農協連が取り纏めている「十勝畜産統計」と「日畜会報86:2」および「畜産技術」の畜産・肉牛関係記事の内容からです。

1. 2015.3. 平成26年十勝畜産の動向(十勝農業協同組合連合会)

平成26年の十勝管内農協取扱高は2,798億円で前年比+5%, 畜産部門では1,573億円で+71億円と過去最高の結果でしたが畜産農家の所得増にはなりませんでした。肉用牛全体の飼養戸数は617戸に減少(黒毛504戸)、・頭数増となり、飼養頭数は黒毛和種(38,264頭)、乳用種(肉用105,340頭)、乳用交雑種その他の肉用種(59,290頭)といずれも前年比＋1.1から11%と増加しました。乳牛用の草地は62,492ha,とうもろこし作付け面積は20,894haに増加し、酪農家1戸当たり1.3haの増加です。十勝の馬の飼養戸数は170戸、輓系馬の頭数は839頭に減りました。乳牛の個体販売は、育成牛27万、初妊牛54.5万、経産牛35.3万円。肉牛は黒毛(雌50.9万、去勢59.5万)。乳用交雑種(雌30.7万、去勢36.9万円)で前年比約+12%です。

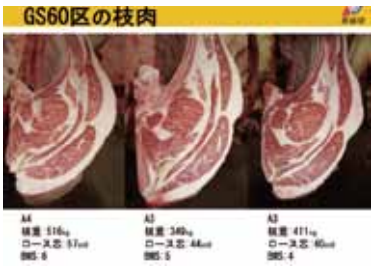
2. 2015.5.「日畜会報」日本短角種における肉質の生産方式間比較(山口悠他 帯畜大)

優れた母性能力が特徴の日本短角種について去勢・未経産・経産肥育および経産廃用牛のロインについて枝肉格付8形質、画像解析9形質および理化学分析16形質の肉質評価を行いました。供試牛は北海道内同一農場飼養のそれぞれ6～12頭の38頭で母乳・人工乳で哺育後牧草、デントコーン給与、放牧などで育成、6～9ヶ月間肥育されました。その結果、肥育成績では、画像解析および理化学分析に経産肥育と未経産および去勢牛に有意な違いは見られず、経産廃用牛の肉質低下は顕著で、日本短角種の母性能力を引き出す経産牛では1-2産以内ならば肥育により未経産や去勢牛と遜色のない肉質改善が見込めると思われました。

3. 2015.8 畜産技術:国内情報4. 黒毛和種繁殖牛の寒冷地冬季屋外飼養の普及に向けて(深澤 充 他 東北農研セ)

黒毛母牛の東北地方における冬季屋外飼養の繁殖成績や子牛発育成績などへの影響を検討する目的で盛岡市内の東北農研センターにおいて11月～3月(気温-20.4～15.1℃)に飼養試験を実施しました。母牛の分娩後繁殖成績や子牛の生時体重や発育成績に屋内飼養との有意差は認められず、牛舎の収容頭数増など黒毛繁殖牛の冬季屋外飼養の有用性が確かめられました。

道総研　畜産試験場NEWS

グラスサイレージ給与による黒毛和種去勢牛の育成肥育Ⅲ③

畜産試験場肉牛グループ　遠藤哲代